

10月の衛研検査情報 ～概要版～



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。

医動物・種類同定検査結果（令和2年4月～9月）

人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

主な結果 検査報告件数は5件で内訳は、昆虫類3件（コウチュウ目1件、ハチ目1件、ハエ目1件）、その他の節足動物2件（ザトウムシ目1件、クモ目1件）でした。

食品アレルギー検査結果（令和2年8月）

加工食品では、特定原材料の表示の記載漏れや製造・調理施設での混入等により、食物アレルギーのある人がその加工食品を知らずに食べることで、アレルギー症状（じん麻疹、下痢、呼吸困難等）が起こり、中には死に至るケースもあります。当所では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

主な結果 ▶原材料に卵を使用していないとされる食品12検体について、卵の検査（スクリーニング検査、以下同じ）を行い、すべて陰性でした。▶原材料に乳を使用していないとされる食品12検体について、乳の検査を行い、すべて陰性でした。▶原材料に小麦を使用していないとされる食品12検体について、小麦の検査を行い、すべて陰性でした。

農産物の残留農薬検査結果（令和2年8月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

主な結果 日本なし及びびどう（各5検体）の計10検体について検査を行いました。日本なし5検体及びびどう5検体から延べ28項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報

感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。ここではアクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説します。



<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/geppo/inspection-inf.html>

主な結果 令和2年9月は、横浜市感染症情報センタートップページ、リシン毒素、大麻（マリファナ）、ぎょう虫症、トキソプラズマ症、B群レンサ球菌感染症などに関するページへのアクセスが多くみられました。総件数は 347,900 件でした。